

日本美術の発展に多大な貢献をした日本の美術研究家、岡倉天心に捧げられたこの静かな場所には、1913年に亡くなった天心が晩年に暮らした山荘があり、庭園では天心の母国に対する素晴らしい功績に関する資料を閲覧することができます。

恐らく、岡倉天心による最も重要な功績の一つは、国立東京藝術大学の前身である東京美術学校を設立した人物の一人であり、のちにこの美術学校の校長となったことでしょう。後に著名になった多くの学生たちを教えたことのほかに、天心はまたニューヨークで『茶の本』を出版し、日本の茶文化についてもっと知りたいと考える西洋の人々の間で広く読まれました。また、ボストン美術館のアジア部門長にも任命され、博物館が所蔵する中国と日本の美術品を担当しました。

天心はもともと横浜出身ですが、天心が妙高エリアを愛して晩年にここで暮らすことを決意したことにより、天心自身とこの場所は、地元の人々と海外からの観光者の両方に開かれた、本当の意味での文化的ランドマークとなるに至ったのです。